

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 25日

【評価実施概要】

【評価実施機関】

事業所番号	0191000025		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム冬桜		
所在地	〒069-0845 江別市大麻東町 3 1－5 (電 話) 011－386－3000		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	16,000~20,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり 1,310 円		

(4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低 75 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中山会新札幌パウロ病院 松本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、医療や福祉関連の事業所を多数運営している医療法人が、3ヶ所目のグループホームとして開設した。事業所の周りには、住宅や商店街、公園があり、暮らしやすい環境である。敷地内には、大きな八重桜が植えられ、毎年春には地域の住民を招待して、花見を催している。建物内部は、広くゆったりとした使いやすい設計で、車椅子や歩行器での移動も快適な造りとなっている。家族や知人など、面会者が多数来所し、地域の小学生やボランティアの訪問も多い。職員は、利用者とともに訪問者を笑顔で受け入れ、交流を重ねており、地域に開かれた事業所運営に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題とされた、事業所独自の地域密着型理念の策定や、研修報告については、職員全体で検討し、改善に向け取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員間で項目を分担して取り組み、カンファレンスで全項目を話し合いながら、ユニットごとに自己評価表を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、町内会会長や自治会会長、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者を構成員として2ヶ月ごとに開催し、事業所の状況を報告している。また、会議の構成員には、認知症講座やレクリエーション等にも参加してもらい、事業所への理解を深めた上で、活発に意見交換している。会議内容は、事業所のカンファレンスで報告し、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者や職員は日ごろから、家族が面会に訪れる際、気軽に意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議やケアプラン説明時にも、積極的に意見を聞いている。出された意見や要望はカンファレンスで話し合い、全職員に周知し事業所運営に活かしている。重要事項説明書にも、内部、第三者の苦情相談窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭り・パークゴルフなどの行事に参加している。近所のカフェや体操教室の行事、幼稚園や小学校の運動会・学習発表会にも積極的に参加し、資源回収にも協力している。また、近隣の住民を花見、祭りなどの事業所行事に招待している。小学校の総合学習授業やジュニアクラブの児童を受け入れ、地域のボランティアとも、広く交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人共通の運営理念と基本方針があるが、全職員で話し合い、「地域に開けたグループホームを目指す」という、事業所独自の年間目標を掲げ、地域との交流に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念カードを携帯し、常に意識しながら、基本方針に沿った支援に取り組んでいる。月2回のカンファレンスでは、理念についての確認や話し合いを行い、職員採用時にも説明している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事や地域の体操教室、幼稚園や小学校行事にも積極的に参加し、資源回収にも協力している。また、地域住民を事業所行事に招待している。小学校の総合学習授業やジュニアクラブの児童を受け入れ、地域のボランティアとも広く交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員間で項目を分担して取り組み、カンファレンスで全項目を話し合いながらユニットごとに作成している。改善項目もカンファレンスで具体策を話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会会長や自治会会長、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者を構成員として2ヶ月ごとに開催し、事業所の状況を報告している。また、会議の構成員に、認知症講座やレクリエーション等にも参加してもらい、活発な意見交換をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの健全な運営を行うため所轄市町村には、適宜、指導や助言を求めている。また、定期的に運営推進会議の内容を報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや金銭管理について伝えている。また、個別に葉書や写真を郵送したり、電話で連絡するなど、家族や利用者の状況に合わせて報告している。季刊誌も年4回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、運営推進会議やケアプラン説明時、家族来訪時に聞いている。出された意見や要望は、カンファレンスで話し合い全職員に周知し、事業所運営に活かしている。重要事項説明書に内部、第三者の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、事業所内の話しやすい雰囲気づくりに努め、職員が自己啓発のため研修を受講する際には柔軟に勤務調整を行うなど、ストレスを溜めない働きやすい環境を整えている。そのため、離職は少なく、利用者とのなじみの関係が築けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の病院が主催する院内研修を、毎月希望者が受講している。年1回の院内発表会にも参加し、症例検討を発表している。外部研修にも職員が交代で受講できるようにし、受講後は報告会を開き、報告書や資料が閲覧できるよう整備している。職員の意識は高く、個人的にも積極的に外部研修を受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の管理者会議や地域のグループホーム交流会、グループホーム利用者の集いに参加して、交流を重ねている。グループホーム交流会では、職員が企画や準備段階から参加し、他グループホームの祭りやパークゴルフ大会などで交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、必ず本人や家族に事業所見学に来てもらい、話を聞いている。また、職員や他の利用者と茶やレクリエーションを共にしながら、事業所の雰囲気を感じてもらうよう配慮している。利用開始後1週間は、24時間の生活リズムを把握しながら個別に対応し、徐々になじめるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、傾聴を心がけ、利用者の喜怒哀楽と共に感じ合いながら、いろいろな事を教えてもらっている。また、利用者の状況に応じ、掃除や調理、買い物などの生活場面で、互いに支えあう関係を築くようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の話を十分に聞き、わかりやすい言葉で会話することに心がけ、利用者の思いや希望を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式で蓄積した24時間の生活リズムパターンや、家族からの情報シートなどを参考に、本人や家族の意向、主治医や看護師からの助言も考慮しながらカンファレンスを行い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の具体策を項目別に分けて、実践状況を日勤者が毎日チェックしている。月2回のカンファレンスでモニタリングを実施し、計画にずれがないか確認して、3ヶ月を目途に計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人との医療連携体制により、訪問診療や訪問看護を実施し、利用者の健康管理を行っている。法人の送迎バスを利用した通院支援や、外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、毎月の訪問診療と、毎週の訪問看護で、利用者の健康管理を支援している。利用者の希望により、利用開始前からのかかりつけ医の受診も支援し、家族へ受診内容を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化や終末期における事業所として可能な支援内容については、本人や家族に説明している。しかし、事業所の対応指針は明確に整備されていない。	○	重度化や終末期における対応指針を具体的に文書化し、利用開始時に家族に提示するとともに、状況に応じて段階的に関係者と話し合い、方針を共有しながら支援に取り組むことを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者を人生の先輩として、尊敬の念を基本とした言葉かけや態度で接し、失礼のないよう心がけている。申し送りや記録には、イニシャルを使用してプライバシーに配慮し、個人情報保護に関する取り扱いも定めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者個々のペースを大切に見守りながら無理のない支援を心がけ、利用者の希望を聞きだしてできるだけ個別のケアに取り組むよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫物した野菜を切ったり、もやしの根取り等の下ごしらえや、調理、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き等の一連の作業を、多くの利用者に声かけをして、職員と一緒に楽しみながら行えるよう支援している。また、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後に入浴支援をしている。利用者が寛いで入浴できることを大切に、健康状態をチェックして水分補給をしたり、体調に合わせてシャワー浴や清拭にするなど、柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園や花畑作り、掃除、洗濯物干しや取り入れ、ごみ捨て、カーテンの開け閉め等の役割を担ってもらい、利用者には、感謝の気持ちを必ず伝えている。趣味を活かし、作品展へ出品するなど、達成感や満足感を得られるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、畑・庭仕事、買い物、体操教室や商店街の集いへの参加など、日常的な外出支援をしている。また、四季を楽しみながら遠くまで外出したり、家族も参加しての外出など、行事を企画し支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しているが、防犯上の理由から、玄関は電子ロックで施錠している。ユニット間は、自由に出入りできる。階段昇降時は職員が付き添い、不穏時には戸外に同行するなど、安全に配慮し、自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による設備点検と避難訓練を、地域住民の見学のなか、1回実施している。また、職員は地域防災の災害図上訓練に参加している。運営推進会議では、地域の協力を要請しているが、協力体制が整備されるまでには至っていない。	○	運営推進会議で、災害時における地域の協力を要請し、体制を整備することが望まれる。近隣住民の協力体制の下で避難訓練を実施し、さらに、夜間などあらゆる場面を想定した訓練を、定期的の実施するなど、今後の取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂食量を食事ごとに把握し、一日の水分摂取量とともに記載している。職員は、インターネットで栄養バランスを参考にし、年齢にあった献立を作成しているが、カロリーバランスについてはチェックしていない。	○	栄養バランスのチェックには取り組んでいるが、カロリーチェックは実施していない。今後、1週間程度の食事内容のカロリーを計算し、それぞれの利用者に、適切な栄養の食事を提供できるよう取り組むことを期待したい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりと設計され、明るく開放感が感じられる。廊下は幅が広く、奥にはソファやテレビ、書棚を設置し、少人数で過ごせるスペースを設けている。台所は、アイランド式キッチンで、作業しやすい広さのカウンターを設置し、動きやすい工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、明るく、ゆったりとしていて、自分の時間を過ごせる空間になっている。利用者は、家族と相談しながら、自分の使い慣れたなじみの家具や趣味の物を持ち込み、居心地良い居室となっている。		

※  は、重点項目。